

# 障害があっても晴れ着を！！



## はじめに

私は先日、振袖を着てはたちの集いに参加してきました。旧友や恩師と再会して思い出を振り返ったり、当時は出来なかったような話をしたり、一緒にお酒を飲んだり、互いに成長を感じるとても感慨深い時間を過ごしました。また、何より家族に振袖姿を見せて、手紙を渡し20年間の感謝を伝えることが出来たことがとても良かったです。

重度重複障害がある人にとっても言うまでもなく、20歳は大切な節目の年であり今まで関わった人に感謝を伝える重要な機会です。さらに小さな時から様々な困難を共に乗り越えてきた家族、その他の関わってきた人達にとってもその子の20歳を祝い、晴れ着姿を見ることはとても感慨深く嬉しい出来事だと思います。

しかし、特に振袖は長時間立っておかないと着ることが難しく、それが難しい人には着用が厳しいのではないかと、しかしなんとか着る方法はないのか疑問に思い、このテーマを選びました。

一般的な着物を一般的な着付け方法で重度重複障害がある人が着ることの問題点

1. 起立状態の維持が必要
2. 着崩れが起きやすい
3. 着用中の不快感・疲労感が激しい
4. トイレを済ませにくい



## 振袖を着る方法

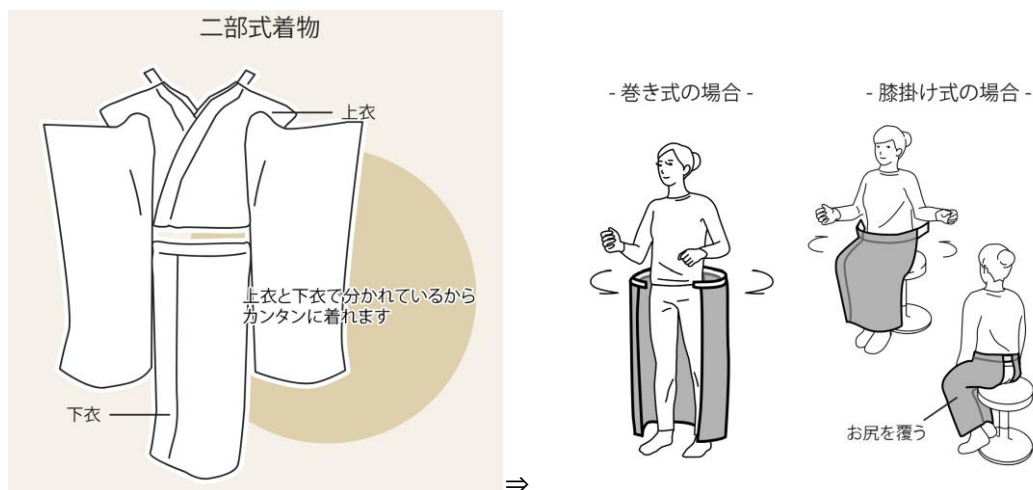
### ①障害がある人向けの着付け師さんを頼む

**メリット** ⇒ 手持ちの着物を現在の形のままで使える。

**デメリット** ⇒ ・着物特有の不快感が残る。

- ・「上半身の態勢を維持できる」などの条件が求められることが多い。
- ・着付け師さんの数が限られているため、成人式予約だと3年先まで予約が埋まっていることもある。

### ②障害がある人向けに作られた着物のレンタルサービスを利用する



出典：明日櫻 <https://asusakura.jp/>

**メリット** ⇒ ・着付けをしたことがない家族でも簡単に着付けられる。

- ・着用時の着物特有の不快感が少ない。

デメリット⇒・デザインに限られる（それでも結構種類あり）。

・家に伝わる振袖が着られない。

### 3. 着物をリメイクする



出典：京都きものサロン創夢 <https://kimono.salon/bedridden-disability-kimono-dressing/>

メリット ⇒家に伝わる着物を着ることが出来る。

デメリット⇒着物を切ってしまう。

#### まとめ

障害がある人にも晴れ着を着ることが出来る機会が保障されていることが分かりました。しかし、車椅子ユーザーの方が障害のある人向けの着物を開発されたと書いてあったので、少し前の時代だと諦めざるを得なかったのだと思いました。

またサイトを見ると重度重複障害のある方など限らず、高齢者の方もこの着物を着られていて、自分の身体の状態を着たい服を諦めなくて良い時代になったのだと嬉しく思いました。

参考文献：

京都着物サロン創夢 <https://kimono.salon/bedridden-disability-kimono-dressing/>

明日櫻 <https://asusakura.jp/rental/> （2024/01/14 閲覧）